

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人湖成会 グループホームあった家
(ユニット名)	Aユニット Bユニット
所在地 (県・市町村名)	静岡県富士郡芝川町大鹿窪
記入者名 (管理者)	後藤 まどか
記入日	平成 20年 8 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としては法人としてのものと同時にこやまケア10か条を掲げている。それに基づいてケアにあたってはいるが、事業所独自の理念は掲げていない。	○ ①事業所としてこやまケアを起点とした具体的な取り組みを考案していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症ケアとしてこやまケアの指針を掲げている。 ①こやまケア委員会の活動(事例検討会・広報誌の作成等) ②部署目標としても利用者本位のケア実践に向け取り組んでいる。 ※事業所としての具体的な取り組みの実践は今後の課題となる。	○ ①認知症ケアの実践を他事業所に向けて報告していけるよう、具体的な取り組みをしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①年に2回の家族会の実施(4月に一回開催している) ②運営推進会議での意見交換・運営や施設としてのケア方針の提示をしている。 ※理念に関しては、大きく掲げていない為、伴った報告は行えていない。	○ ①家族会の充実化を実施する為に、独自の取り組みを考案していきたい。 ②地域からの訪問、事業所から地域への情報発信としての取り組みを考案していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	①散歩や近隣のパトロール、近所のお店への買い物を通して、話す場や顔を知って頂く働きかけを実施。 ②パン屋・畑等立ち寄って頂いた際の挨拶やお茶だし等の接遇に関して、職員間で統一できるよう話し合っている。	○ ①事業所の存在が広く認識されるにはまだ乏しい現状がある為、地域活動の一環である、ふれあいサロンへの参加や運営推進会議・事業所の広報を兼ねた活動誌等を作成し、地域との関わりを増やしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	①近隣地区の常会・祝い行事への参加	○ ①地域行事の案内情報を得る為の繋がりを持っていく。 ②運営推進会議に地区区長の方がメンバーである為、地域行事に関する情報を詳しく伺っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	①具体的な活動はない。 ②グループホーム事業所連絡会を通して、実践報告会等に参加し、職員間で話し合う場を設けている。	○	・認知症の御家族を支える会の発足や認知症ケアの悩み相談室窓口の設置、又認知症サポーター養成講座の実施の検討中
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	①外部評価が今回初めてとなる為、改善には至らないが、評価を受ける意義は職員間で周知している。	○	①今回の自己評価・外部評価の結果を経て今後の活動・運営のあり方を確認し改善に繋げていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①二ヶ月に1回実施している。(運営・活動報告・事故等の報告) ②意見交換で得た情報、アドバイス等サービス向上に繋がる項目を職員間で情報共有を行っている。	○	①地域からの声として、事業所内に掲示等行い、実践の有無を透明化する必要があると考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	①認定調査時の情報提供。 ②民生委員の訪問を月1回は受け入れ意見交換をしている。 ③芝川町介護保険事業者連絡会への参加。(但し、本年はまだ実施していない)	○	①市町村担当者と認知症を支える在宅家族の会の設置に向け、話し合いをしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	①法人内全体研修時に権利擁護についての勉強会への参加。 ②実践的な理解が全職員とは言えない。	○	①今後の必要性を考慮し、活用に繋がられるよう理解と普及に努めていく。 ②事業所内での勉強会の実施をしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①研修への参加、事業所の会議での職員間の周知に努めている。 ②関係事業所間内での事例検討会議に計画作成担当者が参加している。	○	①今後も定期的に学ぶ機会を設け、防止に努めていく。 ②町内の高齢者の見守りに関するネットワークに参画していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>①家族会以外に個別での説明を実施。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>①苦情受付担当者・責任者を設け、事業所内に掲示。意見箱の設置をしている。また、運営推進会議にも参加して頂いている。</p>	○	今後意見があった際には、その改善や結論についての書面での掲示を行っていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>①一ヶ月毎に請求と共に状況説明(ご家族様への手紙)・金銭管理を同時に送っている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>①苦情受付担当者・責任者を設け、事業所内に掲示。意見箱の設置をしている。また、運営推進会議にも参加して頂いている。</p>	○	今後意見があった際には、その改善や結論についての書面での掲示を行っていく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>面談を定期的に行っている。また、会議での意見交換・個別での面談を適宜実施している。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>①日中帯の人員確保の為に3交代勤務の実践。また、入居者様の状態に合わせた勤務調整についても随時行っている。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>①開設以降、やむを得ず一名併設している施設への異動があり、説明を行っている。 ②離職防止としては、面談の実施また、併設施設との運営会議を通して、問題点についての話し合いを設けている。</p>	○	①今後も離職・異動に関しては大きな混乱とも言える課題ではある為、現状に即した対応策を講じていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①個人目標に応じたスキルUP研修又、外部研修へも必要に応じて参加している。 ②プリセプターシップ制度、リーダーシップの勉強会、その他資格取得勉強会を法人内で実施している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①富士宮・芝川介護保険事業連絡協議会のグループホーム部会に参加している。 ②他事業所(グループホーム)からの実習を受け入れている。	○ ①他施設との交換研修の実施。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	①面談の実施。 ②休憩時間・残業に関する説明を適宜行っている。 ③有給の活用促進 ④関連法人内での衛生委員会での検討を実施。	○ 職員のストレス改善の為に、日々の面談や事業所内の会議において随時意見交換しながら、業務等の改善に繋げていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標管理シート・事業所内の360度評価の活用。上期・下期に合わせた進捗状況の面談をし、個々の実践評価が伺える仕組みとなっている。	○ 目標設定は今後も年度毎実施し、職員個々のスキル向上やケアの質の向上を目的としたシステムに力を入れていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテーク情報としてご本人からの要望も伺っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個別に面談を設け、話を伺っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①事業所だけの判断ではなく、知り得た情報を同法人施設内での検討会議にかけ、支援の見極めを実践している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	①馴染みの物等を持ち込み、環境整備を家族と共に行う。 ②初期時には家族と共に過ごして頂いたり、利用前に訪問して頂く配慮をしている。	○	現在開設以降の入居者様の退居の事例がないが、今後の受け入れ時の対応についての検討を視野に入れている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	①日々の介護記録においても、入居者様の言葉・表情に着目した記録を行っている。 ②アセスメントを通じて職員間で情報交換し、ケアの統一を図っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①医療・介護の情報を面会・外出時等で訪問されるときに報告している。 ②家族会・行事を通して共に過ごす時間を設けている。(遠方の家族に対しては、電話連絡等での情報交換を実施している)	○	①疎遠になってしまうのを防ぐ為に、今後も連絡体制や行事企画への参加等、現状に即した支援体制を考案していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	①行事への参加等で職員も共に過ごすことにより、繋がりをもてる空間をもてた。 ②面会時には、随時家族の環境変化や心情を伺い、入居者様の支援に繋げている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①個人情報漏洩に触れないように配慮し、関係性については家族の承諾又連絡を通しながら面会の行き来を行っている。 実施としては一部で、入居者全員の支援とはなっていない。	○	在宅の頃の関係性を知り、より馴染み深い関係に即した支援方法を確立していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	①トラブル等発生した際には、個別処遇を設けその都度双方の精神面のケアに努めている。 ②関係性を見極め、作業の提供や個々にリフレッシュ出来るよう支援にあつたっている。(申し送り又カンファレンスで情報共有)	○	職員の力量によっては対応が困難な事例もある為、職員の交代性で支援にあたっているが、今後の力量の向上を図る必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事例が現在までにありません。	○	今後の対応としては、継続性をもって関係を保ち、支援を怠らずにやっていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①日常生活や個別に思いを聞き、発言を大切にしている。 ②部署会議内での検討を適宜実施。 ③記録にセンター方式の活用をしている。 ※全利用者の意向が充分とは言えず、今後の検討が必要である。	○	・思いを受け止める為の手段を考案し、利用者本位の意向を聞き出していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①情報としては不十分。(家族には情報の提供を依頼している) ②アセスメントの実施(一部センター方式を導入している) ③在宅時の居宅支援事業所等からの情報は得ている。	○	①今後も引き続きアセスメントとして家族の協力を得ていく。 ②情報を得やすい様式作成を検討していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	①健康チェックを個々に毎日実施(一ヶ月間の様式) ②介護記録をセンター方式に基づいて独自の情報収集として活用。	○	①現状に即した様式を用いて、ケアに活かせる記録をしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①入居者様の意見→日々の介護記録・アセスメントからの要望 ②家族→面会時・サービス担当者会議・電話連絡 ③関係者とは必要に応じて相談している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じて、サービス担当者会議を開催し、変更追加の計画書の作成をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①記録や情報交換等、カンファレンスをしながら行っているが、PDCAサイクルに伴っての記録が不十分。		計画書に即した記録の様式への改善を検討。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	①ご家族と共に食事をする機会を設けている。 ②基本的に面会時間の制限はしていない。 ③外出・外泊の推進を行っている。	○	①必要に応じ、又利用者や御家族の希望による事業所への家族宿泊を推進していきたい。(主に終末期等を考えている)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	①具体的な事例が面だっていないが、文化等要望に応じて企画として行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	①相談室(事業所連絡会)での情報交換 ②グループホーム(事業所連絡会)での情報交換		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事例としてはありません。	○	今後必要に応じて協働して行っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前・入居中に関しても、家族状況又入居者様の状態に応じて医療機関の変更・依頼をしている。情報共有が出来る様式を活用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>・訪問看護師に限らず、利用者のかかりつけ医毎の看護師との連携をし、救急時等の早急なる指示や助言をもらえる手段を講じていく必要がある。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期に関しては現在まで対象者がいないが、今後の事業所の方向性を明確にするために、現状に即したケア方針を定めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>グループホームでの限界を提示する事で、医療との連携を今後も密にとっけていき、終末期等の備えとしていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>・今後の対応にあたっては、連携体制をもち情報交換を行い、その後の経過も事業所としても追っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	①会議・研修等で、職員への個人情報に対する意識付けを行っている。	○ ・今後も尊厳を守っていく為の研修の実施や職員指導に努めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	①職員の認知症の理解にかける部分に関しては、適宜個人指導や会議で支援に関する話し合いを設けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①部署会議等で、利用者本位の生活のあり方について話し合いをしている。 ②生活の中で、行動一つ一つに対し声かけを行い、対応している。	○ 随時利用者の変化等に合わせた話し合いを持ち、生活を崩さずに職員の対応のあり方を見つけていく。 事業所内にも利用者の意見が言いやすい場所・関係性を持つ環境作りを行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	①要望に即した対応をしている。 ②理美容等はボランティア(二ヶ月に1回)の訪問が基本的に利用者の要望の対象となっている。	○ 今後、ボランティア以外の理美容等の要望があった際には、随時対応できる支援体制をしいていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①食事の準備から片付けまでの経過を共に行っている。 ②食事作りに関しては、季節に応じたものや企画等を盛り込み実施している。	○ 状態変化のある利用者に対しての食事提供方法をケース毎は勿論のこと、専門職への協力を求め、職員の栄養に関する知識を向上していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	①要望に即した対応をしている。 ②状態変化等に応じて個々の好みに合わせた食事や捕食の提供を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①認知症の進行に伴い排泄パターンの変化の把握をし、時間誘導や失敗時の対応の仕方を職員間で話し合い支援に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者の状況に応じて対応にあたっている。利用者からの要望がないことも多いが、適宜入浴の声かけ又時間帯の要望を伺っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・言葉に出来ない利用者に対しても不快な部分を見極め、生活の見直しを行う等支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①利用者に目的ある生活を持って頂く事で、喜びにつながる支援にあたっている。 ②家事を主とした個々に合った作業を提供又、要望や季節行事にあわせた支援を実施。(内容によっては、家族や地域の方を巻き込んでいる)	○	①より個々の生活が充実したものになる為の支援内容にしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①金銭管理は基本的に事業所での管理となっている。 ②買い物・外出等は必要且つ利用者の力に応じて所持してもらっている。(但し、その後の釣り等の確認は行っている。)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	①希望又、職員が声をかけての外出・散歩等の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①企画を通じて個別団体と共に外出・外泊支援をしている。(内容によっては家族が参加している) ②個別企画はまだ全員に満たない。	○	①今後も家族との繋がりも大切にし、個々の要望を聞ける場を持ち、支援に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①電話は希望に応じてその都度対応している。 ②手紙はご家族から送ってきて下さる場合や職員からの声かけ等やり取りしている。(例:母の日に手紙を寄せてもらう等)	○	①電話が遠慮等でかけにくい利用者もいる為、対応策を考えていく。 ②関係性が維持できるよう、今後も手紙等連絡がとれる支援をしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①個人情報もある為、面会簿・関係性を職員で把握に努めながら、訪問を受け入れ過ごしやすい場所への案内をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①研修会への参加を必須としており、但し出席出来ない職員に関しては、事業所の会議等で指導にあたっている。	○	①年一回の研修及び、現場において必要と判断した際の指導を行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①日中帯は基本的に鍵をかけず対応している。 ②施錠する事の弊害については、施設外徘徊報告書等を通して理解に努めている。	○	①施設外徘徊に繋がらない為の見守り体制を早期に考えていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	①職員間で、死角の場所を確認し、利用者の行動障害に即して対応できるように努め、対応できない時はPHSでのユニット間の所在確認や職員の助けを求め対応している。	○	①利用者の状態変化(身体・精神・認知症の進行等)に応じて安全への配慮に対しても、職員の観察力を身につけていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①ひやり・ハット報告書又事故報告書を通して、個々の状態によって危険となる物品に関しては、保管方法をその都度検討している。	○	①再度、物品の保管方法を検討していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①事故の発生・発見時には、事故・施設外徘徊報告書を提出。 ②職員間又事故防止委員会を通して改善又防止策を検討している。	○	ひやり報告書を増やすことを事業所の目標としていることもある為、予防策となる事項を情報としてあげていく。 リスクマネジメント研修に参加。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	①事業所の勉強会又、利用者の状態に応じて予想できる症状に対して学ぶ場を設けている。 ②事業所外の研修会に参加をし、対処法等学んでいる。	○	①急変時等の早急な対応にあたる為に、医師・訪問看護師からの指導や学ぶ場を設けていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	①防災訓練の実施(H20年4月～H20年8月までに1回) ②夜間の訓練として隣接した施設と協力体制を訓練を通じて検討 ③地域への協力要請又訓練は実施されていない。	○	①年度毎、4回実施(昼間・夜間) ②訓練毎に反省をし、迅速に対応できる体制作りをしていく。 ③地域への呼びかけ又、訓練についての話し合いを設けていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・近況報告を面会・受診時等に報告し、利用者又ご家族に適応した支援内容を適宜検討している。 ・遠方又は対面が困難なかたに関しては電話連絡を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	①毎日の健康チェック表の活用又、医療との情報共有・申し送り等で、変化等に気付ける工夫や話し合いを実施。	○	①介護職員の観察力向上の為の勉強会の実施
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①服薬リストを適時変更があれば提示書類を更新している。 ②追加・変更時には職員間での申し送りを実施。効能又、内容によってのリスクを確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①事業所内の勉強会の実施。 ②排便間隔の把握をし、便秘傾向の場合は服薬の処方又は、医師・看護師の助言から運動等に繋げている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	①利用者の状況によっては、毎食後のケアが困難な時がある。 ②協力歯科医からの助言をもらい、ケアにあたるケースがある。	○	①個々に合った口腔内のケアを学ぶ場を持ち、対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①個々の摂取量について医師や訪問看護師の指導から把握し、対応に努めている。 ②摂取量や体重等が減少する際は記録し、経過観察に努めている。	○	①疾患等に応じて摂取量の上限を医師に相談していきけるよう、介護職員の力を向上していく。(勉強会等で判断力をつける)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	①研修会への参加又、マニュアルに沿って対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①食品管理は、発注先を定め納品している。(1~3日置き) ②調理器具・食器に関しては、消毒等での管理方法を職員間で周知し、実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①玄関口はホールスペースを持ち、開放感のある空間がある。 ②事業所の駐車場入り口に看板等がなく、場所が分かりにくい状況がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①季節感のある飾り付けの実施。 ②音等難聴の方もいる中で、オーディオ機器の工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①和室・縁側があり、個々の心身の状況に応じて過ごしていただける空間作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①ご家族に依頼し、適宜持ってきて頂いている。	○	・利用者の馴染みの物を居室に充実させていく為に、ご家族の協力を得ていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	①適時実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①在宅に近い建物構造とし、身体機能を活かせるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	①出来ない部分を把握し、事前に声かけ又失敗した際の配慮を心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	①平屋建ての為、畑や花壇・物干し等利用者がすぐに目に付く形になっている為、出易く開放的になっている。	○	・隣接の建物が近い為、より工夫をし景観しても楽しめる空間を考案していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・御家族と利用者との関係性→疎遠になることを避ける為、企画や行事を季節ごとに設け参加の呼びかけを行っている。
- ・チームワーク→職員間でケアに対するの意見を出し合い、向上心をもっている為生き活きとした雰囲気がある。
- ・利用者職員との関係性→寄り添うことを始めとし、企画を通じて職員自らが楽しもうとする姿勢又、情報収集をしながらその方らしい生活について日々考えていくことを大切にしている。
- ・ボランティア→地域との共存に向け、ボランティアの受け入れを実施したり要請を行っている。(例：畑作り・美容師・アロマセラピー等)
- ・ご家族と職員→状態変化以外にも定期的に電話連絡又、手紙での近況報告・写真を毎月毎に送付している。
- ・勤務体制→深夜勤務を取り入れ三交替勤務で体制をしき、日中帯の人員確保を目的とし実施している。
- ・職員のリフレッシュ目的の為に有給休暇をとっている。
- ・職員の向上心UPに繋げる為の目標設定、評価を取り入れている。(面談も適宜実施している)